

5 問題解決能力の醸成のための教育

(5-1) 自己研鑽・参加型学習

基準 5-1-1

全学年を通して、自己研鑽・参加型の学習態度の醸成に配慮した教育が行われていること。

【観点 5-1-1-1】 学生が能動的に学習に参加するよう学習方法に工夫がなされていること。

【観点 5-1-1-2】 1クラスあたりの人数や演習・実習グループの人数が適正であること。

[現状]

現カリキュラムのうち、自己研鑽・参加型の学習態度の醸成にとりわけ有効な科目として、1年次に「早期体験学習」と「初期体験臨床実習」、「教養リテラシー」、2、3年次は「総合文化演習Ⅰ」、「総合文化演習Ⅱ」、4年次は「インターンシップ」と「実務実習事前教育」を配置している。

「早期体験学習」では、病院あるいは保険薬局などにおける薬剤師や他の医療従事者の業務を見学し、その重要性について自分の意見をまとめ、グループで取り上げたテーマに基づいてSGDを行い、発表することを求めている。「初期体験臨床実習」は、本学の協定締結大学である神戸大学医学部の医学科及び保健学科の学生との混成チームを構成し、保健医療の実践現場を訪問し、チーム医療について学ぶものである。ここでも、SGDを行い発表することが求められている。「教養リテラシー」においては次に述べる「総合文化演習」のプレトレーニングとして、5～6名のグループによる発表と討論を行っている。「総合文化演習」では、人文・社会・自然科学のいずれかに属する計12ゼミを設定して学生を配属し、研究テーマを各自に設定させる。各ゼミにおいては更に4名以下の小グループに分かれて研究、調査し、その結果をゼミ内で発表し、討論することができることを到達目標としている。「インターンシップ」は、教育機関と産業界との連携のもとで、学生に、自らの専攻や希望する将来の職種に関連した実習、研修を在学中に体験させるものである。本教科でも、単位修得の要件として受講学生に全体発表会を企画、開催させている。「実務実習事前教育」では、服薬指導に必要な患者背景や情報を把握でき、適切な服薬指導ができるためのSGDの機会を多く設けられているのみならず、学生自ら能動的に学習に参加している。

なお、「早期体験学習」1グループの学生数は10名以下、「初期体験臨床実習」1グループの人数は7名以下である。また、「総合文化演習」における1ゼミ当たりの人数は25名以下であり、構成する学生すべてが発言できる人数で討論させることを重視している。「インターンシップ」では1グループ3～10名、「実務実習事前教育」では1グループ当たり5～10名である。【観点 5-1-1-1】 【観点 5-1-1-2】

[点検・評価]

優れた点

- ・ 1～4年次を通じて自己研鑽・参加型の学習態度の醸成に有効な科目が配置されている。
- ・ 入学直後から「早期体験学習」、「初期体験臨床実習」において、医療関連機関を訪問して医療

の臨場感を肌で感じ、少人数で話し合い、発表する機会を持つことは、薬剤師としての自覚を早くから持ち、意欲的に学習しようとする姿勢を醸成する上で、極めて有意義である。

改善を要する点

- ・特になし。

[改善計画]

特になし。

基準 5-1-2

充実した自己研鑽・参加型学習を実施するための学習計画が整備されていること。

【観点 5-1-2-1】自己研鑽・参加型学習が、全学年で実効を持って行われるよう努めていること。

【観点 5-1-2-2】自己研鑽・参加型学習の単位数が卒業要件単位数（但し、実務実習の単位は除く）の1/10以上となるよう努めていること。

【観点 5-1-2-3】自己研鑽・参加型学習とは、問題立脚型学習（PBL）や卒業研究などをいう。

[現状]

学生の自己研鑽・参加型学習実施の科目として、1年次では、「早期体験学習」（通年、必修、1単位、時間数〔15/30〕）、「初期体験臨床実習」（通年、選択、1単位、時間数〔18/30〕）、「教養リテラシー」（前期又は後期、必修、1単位、時間数〔10/15〕）、2年次は、「総合文化演習Ⅰ」（通年、必修、2単位）、3年次は、「総合文化演習Ⅱ」（通年、必修、2単位）、4年次は、「実務実習事前教育」（通年、必修、4単位、時間数〔36/161〕）、「インターンシップ」（通年、選択、1単位）が開講されている。そして、5年次の「卒業研究Ⅰ」（通年、必修、12単位）、6年次の「卒業研究Ⅱ」（前期、必修、10単位）、「処方解析演習」（前期、必修、5単位）も自己研鑽・参加型学習である。必修科目の単位数としては、計約33単位が開講されている。【観点 5-1-2-1】 【観点 5-1-2-2】 【観点 5-1-2-3】

（資料：シラバス－履修の手引－2009）

[点検・評価]

優れた点

- ・1～6年次にわたり途絶えることなく自己研鑽・参加型学習科目が開講されていることは評価できる。
- ・自己研鑽・参加型学習科目の単位数は卒業要件単位数の1/10をはるかに超えている。

改善を要する点

- ・特になし。

[改善計画]

特になし。